

Q17 「援助は無駄」という声も聞かれますが、実際に日本の援助は途上国で役立っているのでしょうか。

A 現地における日本の援助への評価は非常に高く、そのことは紙幣や切手のデザインという形でも表されています。

途上国の人々の生活水準の改善に貢献

実際これまでの援助で、開発途上国側の何らかの理由（例えば政治体制の変化による混乱など）により資金が効率的に運用されないというようなことがあったことも確かでしょう。

その背景の一つとしては、極度の貧困や教育の普及率の低さなどにより、国家体制が安定しないことがあげられます。しかしながら、これを理由に援助をしなければ、ますますその弊害は大きくなってしまいます。

まず、第一義的には、ODAの基本である人道的協力と世界平和と繁栄の構築に、積極的に貢献することを忘れてはならないわけです。

その一方で、援助にあたっては、様々な調査を行い、途上国との十分な政策協議を通じて、その経済的・社会的効果を十分考慮した上で、協力を実施しています。いかにげんな開発計画には、援助はしないということです。

また、ダムや発電所、道路といったインフラに関

する援助を、とすれば一般国民の生活に関わりがなく、一部の人にしか恩恵をもたらさないものと考えられる向きがあります。

しかし、これらの援助は直接、途上国の国民の生活環境の改善に貢献するほか、その国の経済成長を促進し、途上国の社会全体の底上げをもたらすことができるわけです。いうなれば、国民一人ひとりの生活水準を改善するものなのです。

様々な形で表れる感謝の声

日本の援助が途上国の人々に感謝されていることは、様々な形で表れています。ただ、援助の実施が日本ではなく、海外で行われているため、残念ながら日本の国民が各国の反応を耳にすることが少ないことも事実でしょう。

しかし、例えば現地の新聞などのマスメディアには、様々な感謝や喜びの声が紹介されており、日本の援助に対する評価は非常に高いものとなっています。数多い事例の中から、いくつかをご紹介します。



フィリピンから届いた絵（モーニング・ブリーズ小学校拡充計画）



カンボジアの国道6・7号線の工事風景がデザインされたカンボジアの紙幣



日本の援助により完成したラオス南部のパクセー橋をデザインしたラオスの紙幣



日本の援助プロジェクトを掲載した日本・ニカラグア友好切手

日本の協力で造られた国道や橋が紙幣に

1999年12月に、カンボジア国立銀行は、日本政府の無償資金協力によって改修された「国道6・7号線」の工事風景を裏面にデザインした新1,000リエル紙幣を発行しました。

この国道6・7号線は、首都プノンペン市と州都コンポン・チャム市を結ぶ重要な道路ですが、これまでは通行に5～6時間もかかり、治安の面でも危険な区域を含んでいました。今回の改修により、安全な道路に生まれ変わり、所要時間も2時間程度に短縮されました。

チャ・チャント国立銀行総裁によれば、新紙幣のデザインは2種類あったとのことで、最終的にカンボジアへの経済協力を国民に広く知らしめることが重要との判断からフン・セン首相がこのデザインに決定したそうです。その際、フン・セン首相の心中には、この国道改修プロジェクトのコンサルタント業務に携わり、1997年の武力衝突による市街戦の砲弾に倒れた故岡島隆正氏のことがあったといわれています。

また、2002年5月には、ラオスにおいて、1996年度から2000年度に日本の無償資金協力で建設されたパクセー橋（幅員：約11m、橋長約1,380m）を絵柄に取り入れた1万キープ紙幣が発行されました。ラオス南部の中心都市パクセーは、タイ国境から約40kmに位置し、タイとは国道10号線で直結していますが、同市に入る直前でメコン河に阻まれていました。ま

た、同市にはカンボジア国境からラオス北部まで縦貫する国道13号線が通過しており、橋の建設により、パクセーと近隣諸国との交易が増大し、パクセー周辺の経済発展に大きく貢献しています。

切手になった日本の無償資金協力

中米のニカラグアは、日本のこれまでの無償資金協力により実施されたプロジェクトの中の6件を図案化した「日本・ニカラグア友好切手」を発行しました。切手はミニ・シート形式となっており、両国の国旗の間には日本のODAシンボルマーク、その下にプロジェクト6件の写真がデザインされています。

同国が特定の国の援助に関する切手を発行するのは、今回が初めてのことです。マナグア市内の国立ベン・ダリオ劇場で行われた発行式典の冒頭で、ウビージャ郵政庁長官は、「今回の記念切手の発行は、ニカラグア政府の日本に対する感謝のしるしとして実現することとなりました」と語りました。さらにアレマン大統領は、「これまでの援助に対して、ニカラグア国民と政府の感謝の気持ちをぜひとも日本国民にお伝えいただきたい」と挨拶しました。

なお、切手の下段中央に描かれているセバコ橋は、1998年10月に起きた巨大なハリケーン災害にも「無傷で残った日本の橋」として、同国国内で高い評価を得ているものです。